薄紫

四編上

柳下亭種員作
東嬉樂國重
栄久堂梓

離宮

亀石
実名の
歌潟と
呼ん
早瀬
辨心
尾と
なづく
法号す

源氏
入道宮と小野の尼君と無名の実母花日尼

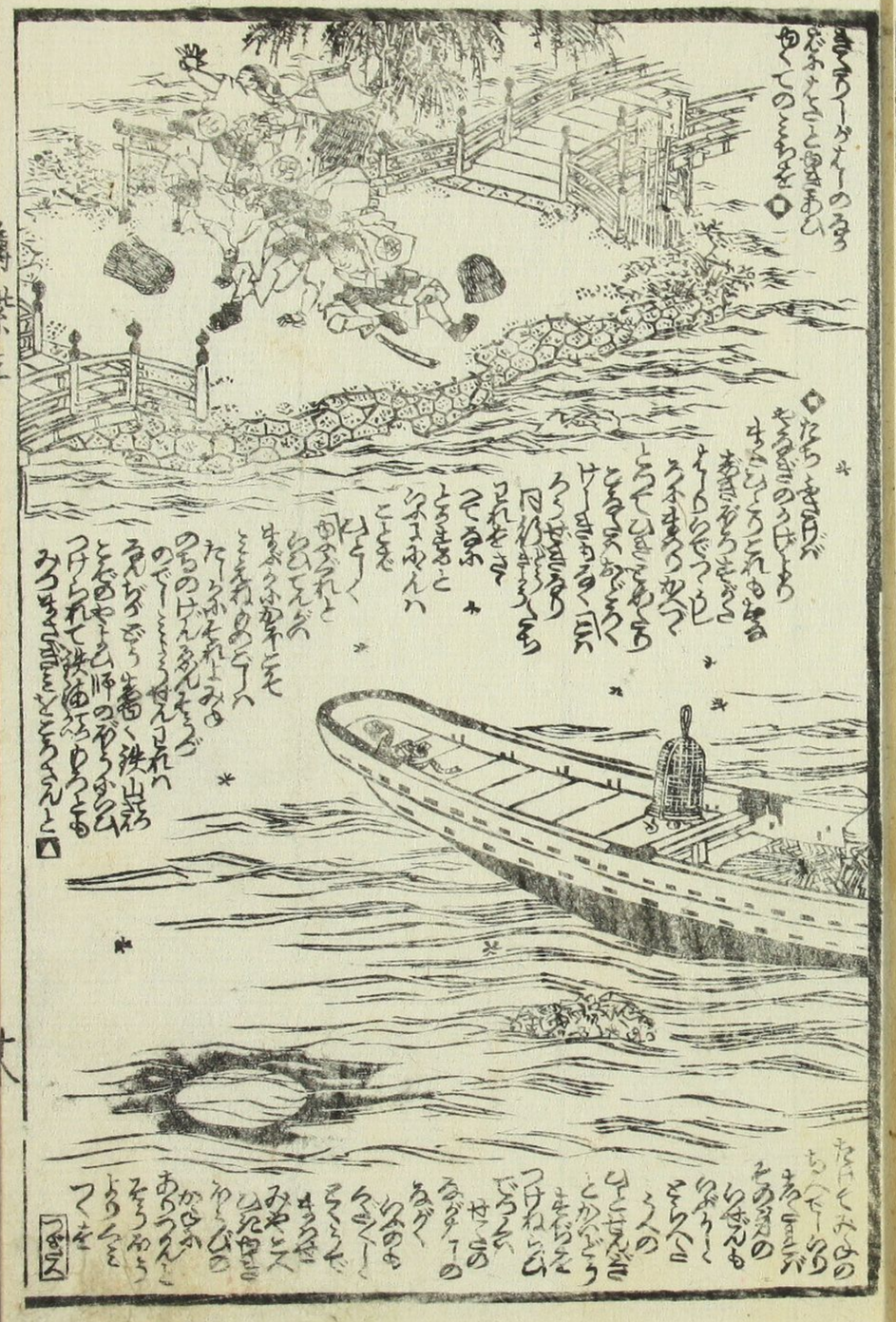
源氏
十四

松
小野の大尾公の比喩
浮嶋
勘解由の後室
松風尾

▲りのとらさるひて
みやこふのつぶ
とのことする

▲そこでさいこのあんのの
ぶえふをくすのりのを
あれるべせよと
いひさとして
あつ田のたち
そのとおのりのを
きくべくて
みやこと
さてそ
かり
けり

▲そこでおそくて
たんぐりをまをらく
そこをうつをあどふ
たのきくらとまえ
れればせいのてろうとして
きこうてちくらのをたり
ちくとりあてろうき
ちりとまをなんとて
きてされけりそうー
とろうてこうふのの
こてろふのの
よーやあろけん
かりあやうを
とのまきてあき
いたのかとこあろ
そをふのをそされも
ちてとあのをーつとろ
まきをよかーえのうふろ
いたろうてとのしきてめて
のてーーこちづけ見ちづ
まそてーこちふこまろふんの▲



兵

玉壺生肌膏 料九六文
金瘡速愈 奇功帝 同九四文
調藥所 新吉原 玉樓
取次所 真乳山本店下 柳下亭
時

つぎ三　土手際をかいなら
くかりとあるぎやぐらまがのあひろ
ハくとよりうびさてろてかくとる
ろのありしかくりーまて来れも
あぬありさまを月のひろりか
それとこころあくあさーよせそ
こうあげさまるかひらさまのの
あくさかてこーめのろり
ひらきそろくとこ来かも
あひあうかるーるとのの
うちかさもうやくーきと
らちらんとそれかてくる
らつつうありひとらぶうーとも
ぶたやどきトまんとまればとも
わくむらくも月をたちくく
ひんあきさまかときかたハ
かくかかありあのやるかどを
さーひぐーたるきてんの帆帽を
ひまうぶのあまうハとこんぐて
まやうちひとあとらびを
かてあけ　これだまてく
ようかぶのくらまハのきてかか
のこまひくひきてくの
でんあよのくのひてろ
りんのまきのらちうきん
きらんてくハーきこそてひぐり
るとこあそかとこんとまる
そちらきくつてんかきろ
せんのちくかきてろそとろ寸

きてけんかいとうこうそ
さそくのあり けん
うぢさとあそかあそか
うちつるとこる
こいわこそく
月をとろ
ことあそてろ
ーとうけこあり
あこかあとろき
なろとちろ
やるのひろりか
うぢさとの
つぎ六

薄紫宇治の曙

三編ハ推ごろの巻まきにて、ようり徳角と流いづべきのうひかり実紅梅竹門の
三巻となり、四編五編六編ハつづる氏巻くハ橋姫推がた徳角巻と、時代ちがひ巻
彼横隠巻の像打交れるゆゑなりり扱それ、七編ハあけまれと流出この巻ハ体ものが
みぐくくれば八編ハもつぎこぶ〜何家おろ〜流出家本二流くくれ者上ハ
大宇治曙初編二編成家ろ者出板仕れ様の形ハ寄稿のハ言ゑ
うるひ語ハ、嗣編ハくぐひこハ丸いの名遠ゑ八製本格形様窓ゑ仕
外二編ハ七編ハこ今わ遠ハ

榮久堂敬白

地本綿綺卸 江戸ヒ町 おやぢ橋角 山りや平右梓

菊道曙

種員作
豊國画

四編下

蓬久堂梓

菊蒙このかの世

白宮

豊國画

種員作

第四編下冊

蓬久堂梓

落葉

宇治拾遺

第四編

上冊

種貞作

豊國画

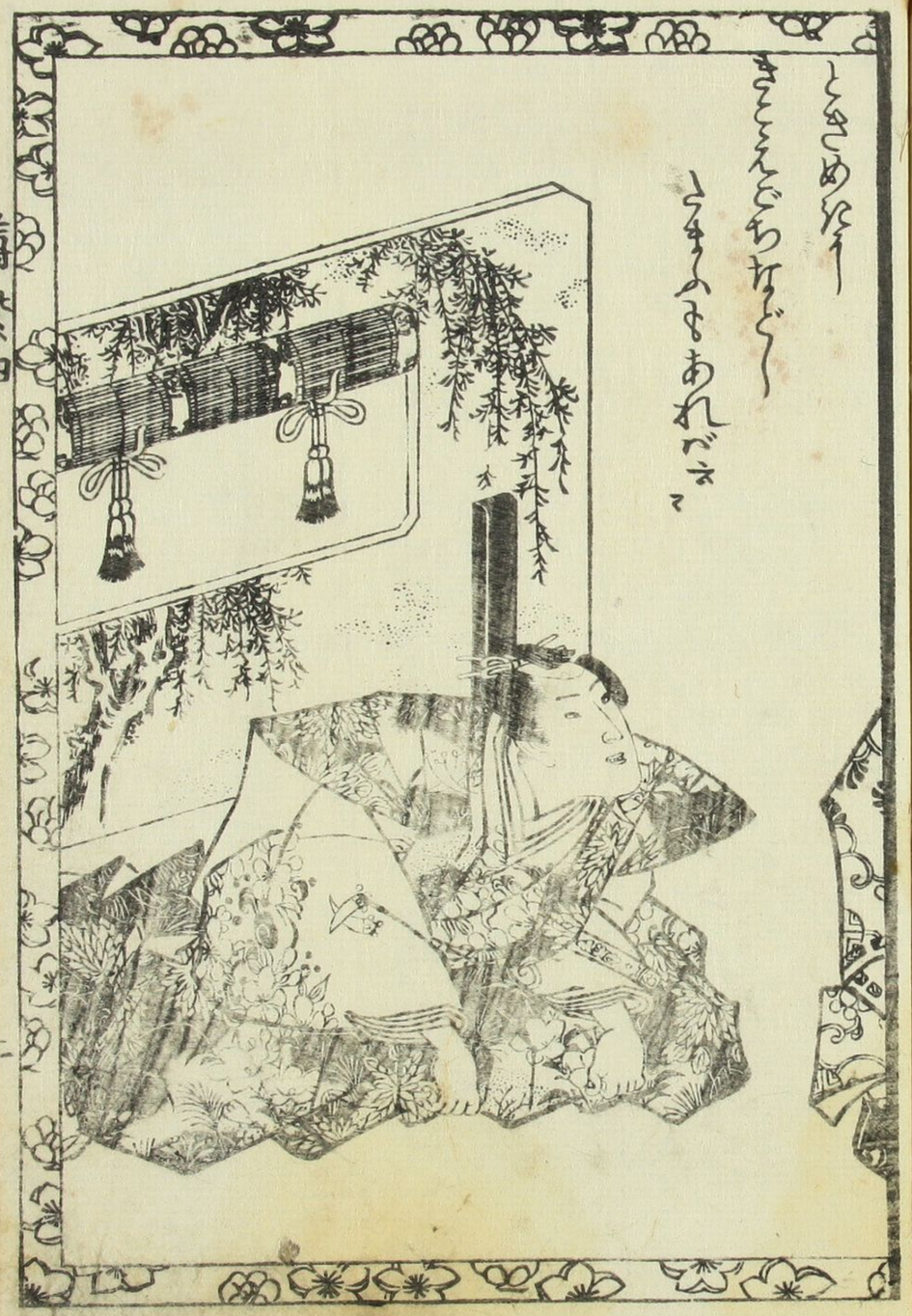
宇治十帖と稱史に綴かれとらふせん山吹の瀬の底の見え透徹の才以
案設えを日を經作に書房ゲ使い數度東そも出来兼れば腹立
なれのあぢれが先とい名に橋の小嶋寄る語路を似通ふ戯口扇の要
の屡に催促べ心急まそ經代木よ立さ波と筆い弥支へられ彼
宇治橋より長く編べき従来の注文も早瀬に楫取柴船の真下
に作るに終に近一と用心さて此編い流を逆登水源に呼米洗獅々乗
まをあ〜すて橋姫と椎本の二帖果復説返に匂宮紅梅竹川の三巻を此
間に加へ總角早蕨抔迄と年立が並べを言分にて斯許果敢るに巣子
い著ども狛や田原に織布より恥をさら〜の丈長きとらふせん

嘉永辛夷正月

柳下亭種員記

ゆりてこそ の巻

例のゆうしゃ
兵ゴロウをる
中わとさうゆて
いひつでクそそ
ひくるきしもあ
わかすらやん
どとあて
こころ
ぐ
ゆ



ときめいて
きこえんどちかなど
ゆきのあれがさ

足利
将軍
義澄公

内君
明石上
足利
左兵衛督
氏仲
若年
頃
雲井の
雁

つゞき
ちんあつくひも
ひとつくるくるぎ
こゝとふうちぎこ
こゝよのちんの
あんさらふ
ごろんーるけ
まびごあつーの
ごくくろくくーこと
ゐふかれがあんあふ
うぢるろもころ
子ふすーくころまさ
をいとねんごろふ
かてるすけらかんて
ようこひこうちきと
ぎこゝがげんぶくの
よーをきとて
めされさらば
みつまきまゐ
かひりをらつ
させんとて
○いづれもをてーしたをどこと
るりひときいまどれてこある
さまふそのころこめよきき
むまめをりわーまろくぎき
めくふこちへころふさ
どのきんぐちを
むとふさむ
やと
こゝろのうちゐ
のぐをぬも
るうり
こゝぐ
一丁ものちの糸とき
二年だろりまんのこと
より
阿波あの人ゐのアとろう
者こ好紋着ちこ長人奇雲
のたちくかんーやこられあくくめ石とり
さらつころちろじみつまろふかをるの
まけみつまくこいまことこいてるりとの

やがてけん
ぶくの
とおこ京
ゆーしま
公のみち
ぐちかの
ぐちかち
ゐふ京
ちこい
ものこじ
ひとろぶ
ぎころ
かゐのの
まけ
○ーまち
どくのこいん
まこいろる斯波だ
そーうけとこもゐこたろ
あーわーけをかこむ
けんこんぐこいるーつぶ
これもちこるろたよりも
ちきみゑこのうちゐ月い
ありてこことさら人のふく
うゑまふかをるのまけを
いちこきをこびれがるる
ゑもありくのりくふかる
らもみくゐふろくーー
みろまきこゐぐう京せびれゐ
ますぐきかとうぎあらぐ京
こぐこちをこまれせて
つぎえ
○ちまちるらぐあこまろちんゆうが
だろころるるかいホさんこと京
あーこまるりとゐよこまをこをこと
つけこけれべかぎりあくころこびて
ころのこうちゐちゐ
ようこれ
これまぐい
なるかゐ
とあれた
○

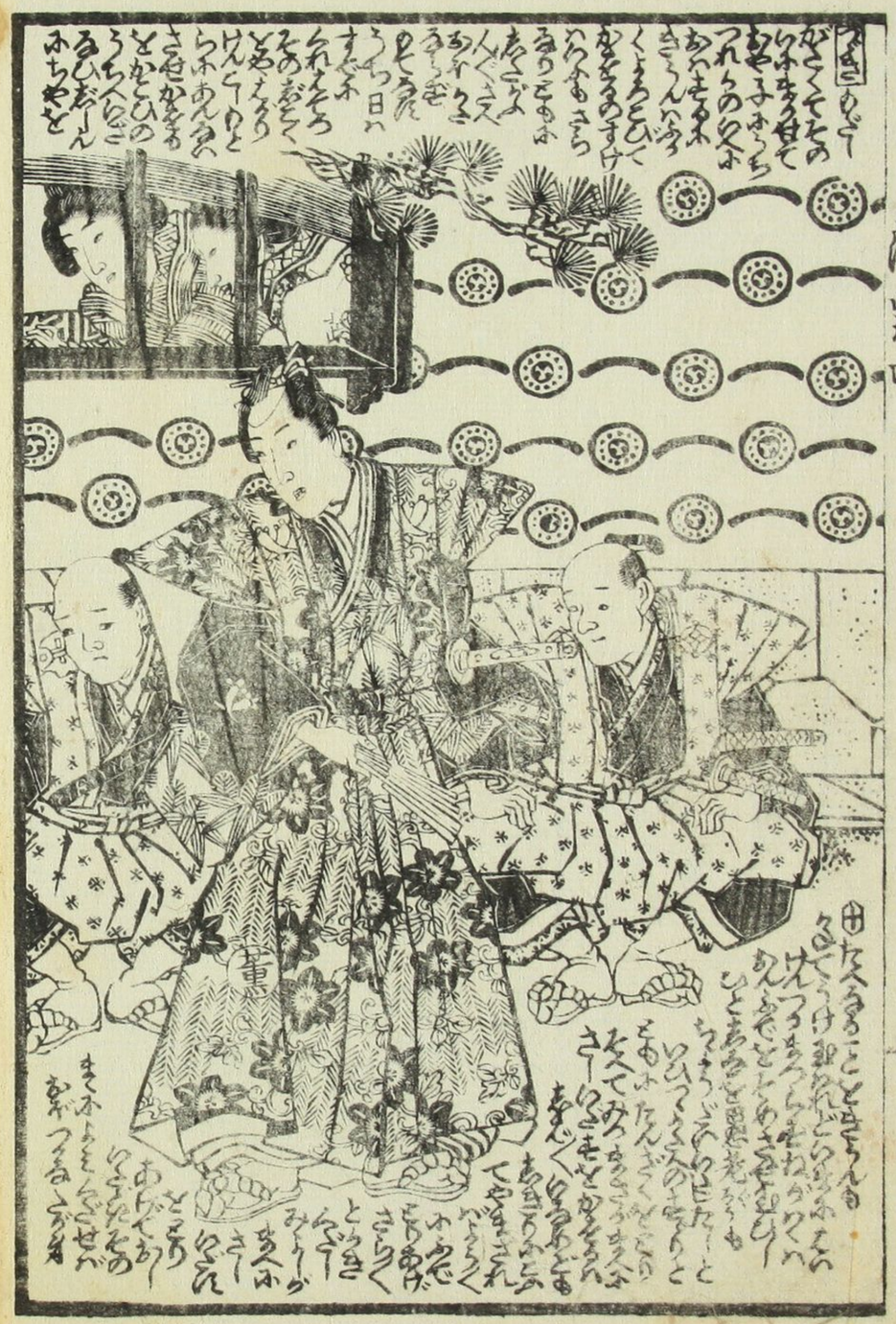
足利前将軍
義植公
光将元服の式終て
義植公御夫婦
拝謁する

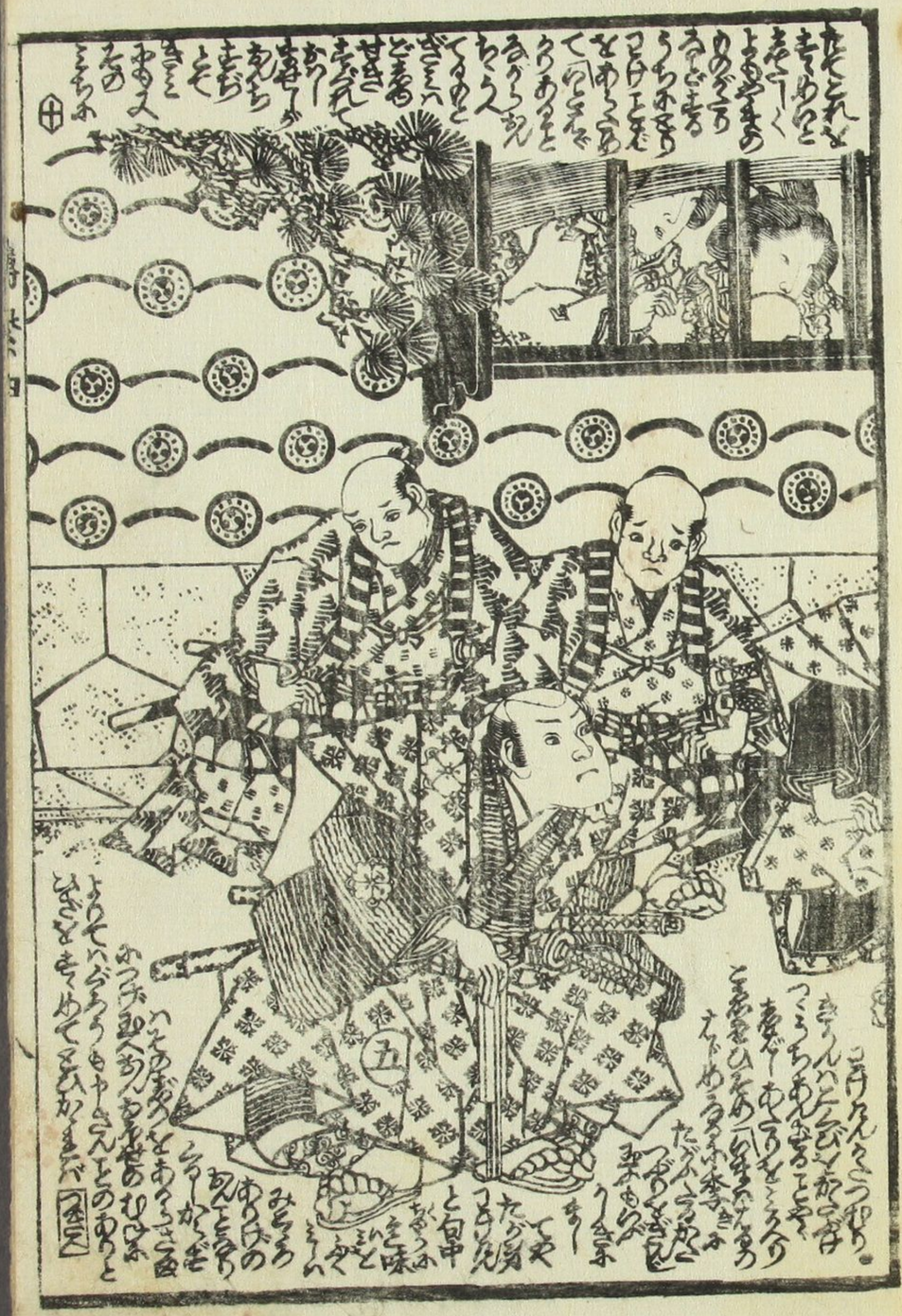
富世夫人
前

三好奇雲
亀石ノ
密書
と見る

梅津直春が事八次のかたり
三好大蔵長兼
奇雲が嫡子
三好奇雲久嫡子
五郎長英
大
五
仲
兵
春

奇
兼





種員作
豊國画

[illegible]

清書 金川

榮久堂藏版新舊稗目録

柳下亭種員輯録
新撰太平記
一勇齋國芳畫圖
中本袋入 初編ヨリ追々出板

[illegible]

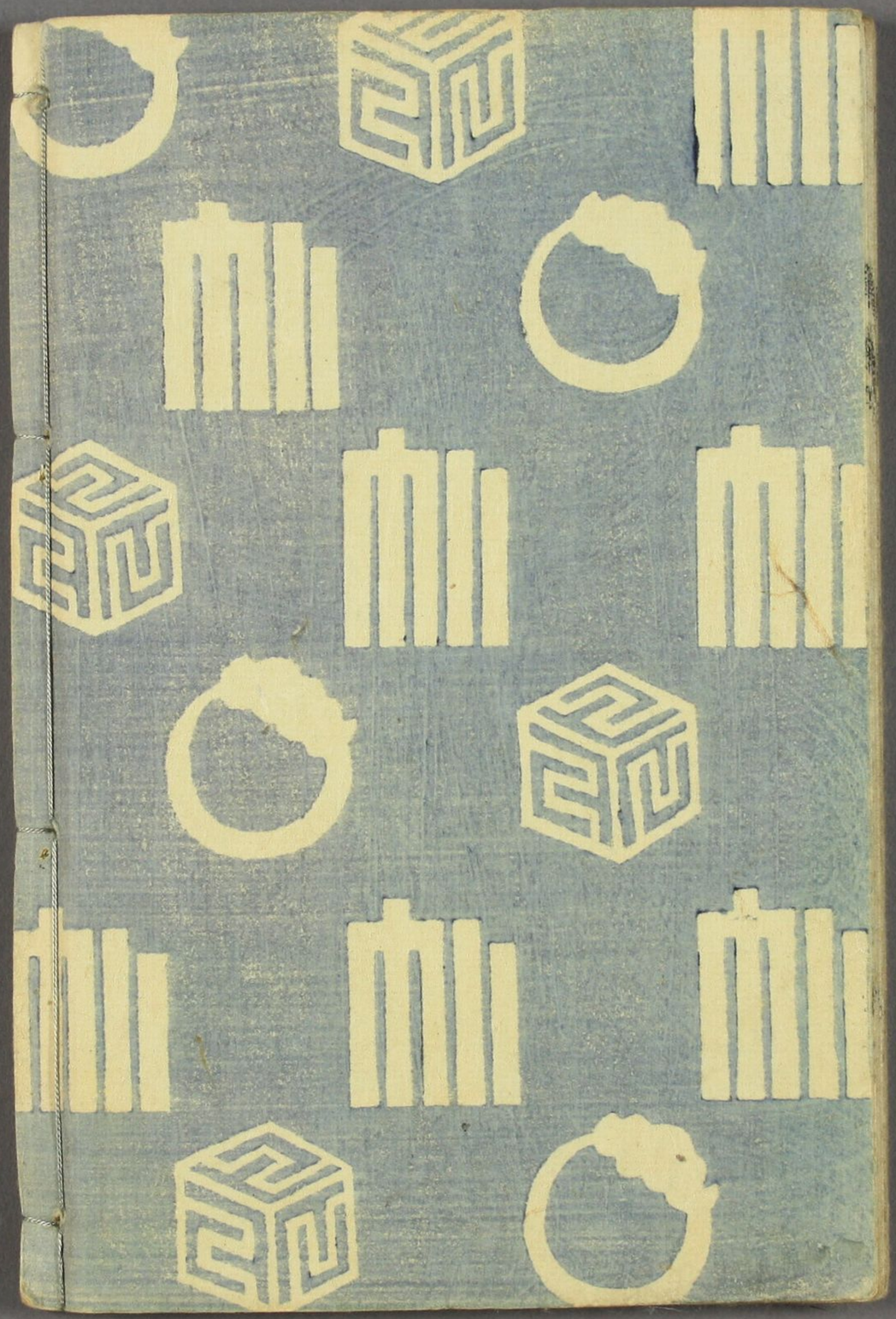
無類彫刻
太平記英勇傳
大錦画五十番續

[illegible]

女用文章袖硯
中本 壱冊

[illegible]

風流源氏五十四帖
中形錦画 筥入

[illegible]

東都錦画所
榮久堂山本平吉